

令和4年度 学校関係者評価 2月

中津市立三郷小学校

1 学校の教育目標

課題に気づき 深く考え 共に意欲を高めて挑戦する 児童の育成

2 育成を目指す資質・能力

言語能力 ・ 問題発見・解決能力

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評定判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～ 89%
C	…達成率60～ 69%
D	…達成率60%未満

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
生きて働く知識・技能の育成	<p>課題設定事項の定着と習得</p> <p>○児童アンケート「キーワードをつかいてふりかえりができた」（書けると言える項目で◎と回答する児童の割合が60%以上） ○算数の単元テストにおける観点別の項目で80点以上の児童の割合が70%以上 ○80点未満の子は、同じテストの追試で前回の点の10%アップを目指す。</p>	学校	○単元のまとまりを意識した授業を展開し、毎時間のキーワードの活用やふり返りによって、基礎学力（言語能力・論理的思考力）を習得させる取組と、活用力（思考力・表現力を重点）をスモールステップで向上させる取組。	○国語・算数・理科の授業において、習得すべきキーワードを板書に位置づけるとともに、キーワードを見通し、考察、まとめや振り返りの時に使う。 ○毎回、単元テストを観点別に集計し、成果と課題を把握する。（個に応じたきめ細やかな支援） ○全教員で、月・火・水・木・金のスキルタイムで、曜日と教科を固定した補充学習を行う。月→（基礎計算）火→（読解）水→（文章問題）木→（活用）【説明力】金→（小作文）	A	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを使っているふりかえりが定着しているのが素晴らしいです。 ・学年、クラス全体の成績が伸びていくとよいです。学力差が少なくなるように、底上げて引き上げていくことを望みます。 ・学力調査の結果の伸びに嬉しく思います。日頃の先生方の取り組みの成果が出ていると思います。 ・どの学年も一つの目標に向かって取り組んでいることはとても評価できます。成果が出ていることも立派です。
		家庭	○子どもの生活習慣を見直し、子どもと一緒に取り組む家庭環境づくり	○親子読書の声かけをし、子どもたちと一緒に取り組む。 ○学期に1回「親子でメディアコントロール」に取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・何よりも保護者の関わりが大事だと思います。 ・保護者アンケートの結果が83%、75%であったために、B評価としましたが、しっかり取り組んでいると感じます。
		地域	○OCS実働組織（地域協育部）を中心に、学習支援を行う	○協育コーディネーターと連携して「なかつスクスクプロジェクト」を計画的に実施する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の協力があってこそですが、皆さんに感謝です。 ・スクスクの取り組みでは、子どもたちの生き生きとした姿が見られる。
思考力・判断力・表現力の育成	<p>他と協力して問題解決する力の育成</p> <p>○児童アンケートで、「ペア・グループ活動を通して思いを伝え合うことができた。」◎◎と回答する児童の割合を90%以上 ○児童アンケートで、「いろいろな方法で考えるためにCT・思考ツールを活用することができた。」◎◎と回答する児童の割合を90%以上（ホワイトボード・ロイノートなど）</p>	学校	○思考ツール（ホワイトボード・タブレット）を活用して考えを深め、課題解決に向けて協働する取組	○【全学年】考えるための技法を位置付けるために、ペア・グループ学習を1日1回以上授業で取り入れ、思いを共有する。 ○【1・2・3年】ホワイトボードで自分の考えを視覚的に表現する。 ○【4・5・6年】ロイノートの思考ツールで自分の考えを視覚的に表現する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・思いを伝えること、ICTや思考ツールを活用することが子どもたちに定着していると思います。 ・タブレットの活用、表現は、子どもたちの学習に大いに生かされていると思う。しかし、ICTに苦手意識のある子どもはどうかと心配である。 ・小中学生で思考ツールを使えるようになると、情報の整理や分析がしやすくなり、本当の生きる力につながると思います。今後も続けられればと思います。
		家庭	○家庭学習に集中できる家庭環境づくり	○「三郷っ子チャレンジカード」の取組に参加し、感想を書く。	A	
		地域	○「三郷っ子見守り隊」を中心としたあいさつ・声かけ運動の推進	○登下校時に子どもを見かけたら、あいさつや言葉かけをする。 ○地域での子どもの様子について、学校に伝える。（学期に1回アンケート）	A	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつでは元気な声が出ています。
学びに向かう力、人間性等の涵養	<p>力意用身の欲しにつけた力を活用する</p> <p>○共通アンケートの「みんなで何かするのは楽しい」の項目で、当てはまる、やや当てはまる◎と回答する児童の割合を95%以上 ○児童アンケートの「感想発表で、自分の思ったことや感じたこと等を伝えることができた。」の項目で、◎◎と回答する児童の割合90%以上</p>	学校	○友だちや、社会との関係を大切にしている心情を育成する取組 ○身につけた力を活かして考えを深め、進んで実践する取組	○主に生活科・総合的な学習の時間にGTを活用した授業を学期1回以上仕組む。（事前事後学習を教科横断的に取り組む） ○行事・集会・掃除・学級活動などで、週に1回以上、感想発表の場を設ける。 ○各学年で、発表についての振り返りの場を週に1回以上設ける。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなで何かするのは楽しい」が、100%という結果がすべてのことにつながっていると思います。 ・GTを招く実践がとても多く、子どもたちが興味を持って取り組める要因であることがよくわかりました。
		家庭	○家庭内で「三郷っ子スピリッツ（あいさつ・返事・言葉づかい・整理整頓・時間）」の励行	○学期に1回「三郷っ子チャレンジカード」の取り組みに参加し、感想を書く。	A	
		地域	○OCS実働組織（学校協育部）を中心に、体験学習を行う	○森林体験学習（みどりの少年団活動）・防災学習等を計画的に実施する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・森林体験学習は、今年度素晴らしい発表ができたと思います。次年度も引き続き実施してほしいと思います。 ・体験での学びを今後に生かしてほしい。
働き方改革の推進	<p>時間外勤務削減</p> <p>○1箇月の平均時間外在時間等を40時間以内</p>	学校	○計画的・効率的に会議を運営し、個別業務に充てる時間の確保と、各担当の業務内容の精選	○ミドルリーダーは、提案内容について適宜、指導・助言を行い、提案内容の精度を上げる。	A	
		家庭	○時間外のPTAや地域協育等に関わる会議等の協議内容の精選と、妥当な終了時間の設定	○担当者・司会者は、会の進行管理と効率的な運営を行う。 ○参加者は積極的に意見を出し、効率的な会の運営に協力する。	A	
		地域		○会の開始時刻をできるだけ早めたり、終了予定時刻を事前に知らせておく。	A	